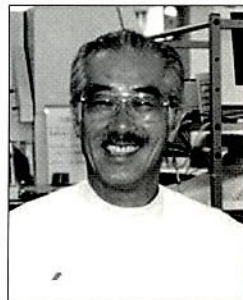


肝炎ウイルスには どんなものがあるの？

日本臨床検査専門医会 影岡武士



【要約】
肝臓は人体内で最大の実質臓器で、成人は一二〇〇gほどの重さがあります。食用として目にする牛のレバーと同じように表面に光沢がある滑らかで淡褐色をした軟らかい臓器です。
肝臓は幅広い働きをしていて、赤血球が壊れたときにできる成分をビリルビンとして便中に排泄し、アルブミンという蛋白や止血のための凝固因子を産生して血液に供給し、脂肪やアンモニアの代謝やその他の解毒作用にも重要な働きをしています。

肝炎ウイルスの特徴

ウイルス 項目	A型肝炎 ウイルス	*B型肝炎 ウイルス	**C型肝炎 ウイルス	D型肝炎 ウイルス	E型肝炎 ウイルス	G型肝炎 ウイルス
ウイルスゲノム	RNA	DNA	RNA	不完全RNA	RNA	RNA
血清学的診断	抗HA-IgM	HBs抗原 (抗体)	抗HCV	抗HDV	抗HEV	できない
測定法	EIA	CLIA	EIA	EIA	EIA	—
カットオフ値	0.8未満	0.05U(10.0mIU) /ml未満	0.9以下	陰性	陰性	不明
主な感染経路	糞口	血液	血液	血液	経口	不明
流行性	あり	なし	なし	なし	あり	不明
慢性化	なし	あり	あり	あり	なし	不明
肝癌合併	なし	あり	あり	あり	なし	不明

*B型肝炎ウイルス検査のカットオフ値

- ・HBs抗原 (RIA法) 0.9以下
- ・HBe抗体 (RIA法) 29%以下
- ・IgM-HBc抗体 (RIA法) 0.9以下

**C型肝炎ウイルス検査のカットオフ値

- ・HCVコア蛋白質 (EIA法) 8 pg/ml未満
- ・HCV RNA定量 (分岐DNAプローブ法) 0.05Meq/ml未満

肝臓障害を起こすウイルス疾患は沢山知られていますが、特に肝臓を主体に攻撃し肝炎を起こすいわゆる「肝炎ウイルス」はA、B、C、D、Eの5種類のウイルスをさします。しかし一九九五年に発見されたG型肝炎ウイルスもその一つに加えられました。
これらの肝炎ウイルスは伝播経路により糞口経路によるA、E型肝炎、主として血液を介して感染するB、C、D、G型肝炎に大別されます。これら肝炎ウイルスの症状は似通っているため身体症状だけでは鑑別が困難です。
【肝炎ウイルスの特徴】
A型肝炎…糞口感染で非衛生的環境の地域に蔓延し、流行性肝炎で慢性化やキャリアーはありません。特異的な治療法はありませんが、不活化ワクチンが予防として使用できます。

B型肝炎…世界で三億五千万人以上のキャリアーが存在し、その四分の三が東南アジアやアフリカに集中しています。ヒトからヒトへ感染し、主として血液を介しますが、性的交渉や母子感染もあります。感染後の経過は大部分は一過性の急性肝炎で終焉しますが、一部はキャリアーから慢性肝炎、肝癌の発生にいたることもありま。輸血用血液のスクリーニングが厳密に実施されてからは感染者が激減しています。
C型肝炎…日常的な接触では感染せず、輸血や麻薬注射が主たる伝播経路です。C型肝炎の特徴は高率に持続感染が成立し、慢性肝炎から肝硬変、肝癌まで数十年の経過で進展することです。一九八九年にC型肝炎ウイルスが発見されたから、スクリーニング法の確立で新規感染者は減少しています。インターフェロンによる治療も一部有効です。スクリーニング検査が献血に導入される以前の感染者があり、治療或いは経過を医療機関でチェックしています。検査法としては、ウイルスの抗体や蛋白或いはRNAを測定しています。
D型肝炎…D型肝炎ウイルスはB型肝炎ウイルスの感染がある場合に感染が成立します。
世界で一千万人以上の感染者がいるとされています。B型肝炎ウイルス単独キャリアーに比べ数倍も高率に慢性化し肝硬変に移行します。
E型肝炎…経口感染により、しばしば貝類の摂食で流行します。大流行はインドで一九五五年に起こりました。最近では家畜からもウイルスが検出され人畜共通感染症として注目されています。
G型肝炎…一九九五年に発見された新しいウイルスですがC型肝炎との重複感染や劇症肝炎の発生が注目されています。しかし、詳細は未解明のままです。